

町民説明会でのご意見及び町の考え方について

番号	頁	意見
1	—	パブリックコメントを募集しているとの事。今回の説明で住民に意見を述べるだけの資料が行きわたったのかが不安。
		町の考え方 「今回の説明で住民に意見を述べるだけの資料が行きわたっているか」とのことですが、本庁舎整備事業に関する資料としましては、新庁舎整備に向けた取組みの経過や、資料を掲載したページを本年6月に町ホームページに開設しており、開設時より広く意見の募集を求めるとともに、広報紙においても新庁舎整備に向けた対策の必要性等をお知らせし、本年7月には町民 2,000 人を対象とした無作為抽出によるアンケート調査を実施する等、情報提供に努めてまいりました。 この度、新庁舎整備について建替えに向けた課題を抽出し、町民ニーズを踏まえた庁舎の機能や規模、場所などの基本的な考え方を整理した基本構想(素案)を取りまとめたことから、町民説明会を開催するとともにご意見等を反映するためパブリックコメントを実施しております。 今後も、ホームページの更新や広報紙を活用する等、引き続き町民への情報提供に努めてまいります。
番号	頁	意見
2	23	津波シミュレーションは現庁舎がない状態のものを出すべき。これでは町民の新庁舎建設をミスリードする事になる。また、県のシミュレーションとの相違の説明も必要である。
		町の考え方 「津波シミュレーションは現庁舎がない状態のものを出すべき」とのことですが、基本構想の策定スケジュールに合わせ、はじめに現敷地に対する津波の影響を把握するため、現状でのシミュレーションを行い北側敷地(本庁舎正面)では、大きな浸水は発生しないことが確認できました。 今後は、土地利用計画の参考となるよう、現庁舎がない状況や新庁舎の建物規模等を想定したシミュレーションを行い、必要となる対応について影響を把握したうえで対策を検討してまいります。 また、「県のシミュレーションとの相違」につきましては、神奈川県が行ったシミュレーションは、建築物などの複雑な形状を県下沿岸市町の全域で再現することは困難なため、土地利用状況に応じた数値を用いて設定しており、基準水位の算出においては津波が衝突した際のせき上げ量を含む浸水深を算出し、津波の遡上に伴う抵抗については実際の建築状況に関わらず考慮しないものとして計算しています。

		一方、本町の津波シミュレーションは、神奈川県が公表している最大クラスの津波データを基に、庁舎敷地を中心に周辺の局所的な地形や建築物を詳細にモデル化した上で、津波が遡上した際に受ける地盤や建築物の抵抗を考慮しており、県が行った解析より詳細なシミュレーション結果となっています。
番号	頁	意見
3	一	人口減少が予想される中で、行政施設を分散させるメリットは何もない。これから建て替えが予想される中学校、小学校と集約させてこそ経済性・合理性が図れると考えられる。未来の大磯を造っていくのは今の役場の職員である事を考えて欲しい。 町の考え方 「行政施設を分散させるメリットは何もない」とのことですが、町としても新庁舎の整備に当たっては複合化の推進を掲げております。災害対策機能の集中を図るため消防本部の機能を新庁舎へ取り込むこととしており、その他にも一部の出先機関を集約する計画としています。 「建て替えが予想される中学校、小学校の集約」につきましては、町が管理する公共建築物とインフラ施設を対象に、公共施設等の総合的かつ計画的な管理の考え方と基本方針を方向付けるため、平成29年3月に策定した「大磯町公共施設等総合管理計画」では、義務教育機能（小・中学校）については保全・整備すべき施設として位置付けており、現時点で、中学校と小学校を集約することについては考えておりません。なお、学校教育施設については、社会教育施設や幼児教育・保育施設を包含した「大磯町教育施設等長寿命化計画」を令和3年6月に策定しており、今後、教育施設等の基本的な方向性を踏まえ、個別施設の具体的な計画を定めてまいります。